



正確にとらえ、伝える力の大切さ

校長 有本 勝彦

5月21日(土)に運動会を実施しました。多くの保護者の皆様のご観覧くださいました。誠にありがとうございました。当日は天候にも恵まれ、開会式から120周年記念のバルーンリリースに至るまで、無事に実施することができました。特にバルーンリリースでは、PTAの皆様からバルーンの準備にご協力いただきました。この場を借りて、厚く御礼申し上げます。空に舞い上がるたくさんのバルーンをみんなで見つめたひとときは、子どもたちにとっても忘れられない貴重な思い出になったことと思います。子どもたちへの励ましや体調管理等、多くの面で支えてくださった保護者の皆様に改めて感謝申し上げます。

さて、運動会を終え、日々の学習により一層力を注いでいく時期になります。私が校内巡視をしているときに、ふと足を止める場面があります。それは授業の中や昼休み等に友達と過ごしている中で、子どもたちが「問題文で問われていることとはちがうことを答えている」「友達との会話で互いの話の内容がかみ合っていない」ときです。これは特別なことではなく、どの学校でも、また生活の中でも「勘違い」等として普通にありがちな場面かもしれません。しかし、とても大切な問題をはらんでいることでもあります。

「文章や会話から必要な情報を選び取って正確に理解する力」に「自分の考えを的確に表現し相手に伝える力」は「コミュニケーション力」とも言い換えることができるでしょう。そして、その力は社会で他者と共に生きていくには必須の力です。相手の意図が理解できずに返答できなかつたり、支離滅裂な返答をしたりするだけではトラブルが起きるばかりで、他者と関わって生きていくこと自体が困難となるからです。

文部科学省の示す学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」をどの学校でも展開することとしています。また、河崎小学校では「主体的に学び、考えを深める授業づくり～対話的な学びを生む授業を通して～」を今年度の研究主題として、日々の授業改善に取り組んでいます。ねらっていることは、子どもに単なる知識を身に付けさせるのではなく、今後の社会を生き抜く上で必要となる資質・能力を身に付けさせることに他なりません。

主体的に他者と関わり、対話によって考えを磨き、深く物事を追究・理解するにあたり、他者とコミュニケーションをとる力がベースになります。それは学校での子どもの学びを充実させる上での大きな力となりますし、ご家庭からも意識的に働き掛けていただければ、お子さんの成長を大きく後押しする力になります。子どもにとって必要な資質・能力の育成を、学校と家庭で連携して進め、著しく変化していくことが予想される未来社会を力強く生き抜いていく子どもを育てていきたいと思っております。